

れき じん

となん歴史民だより vol.43

Morioka tonan history and folklore museum

平成 27 年 6 月 26 日 発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



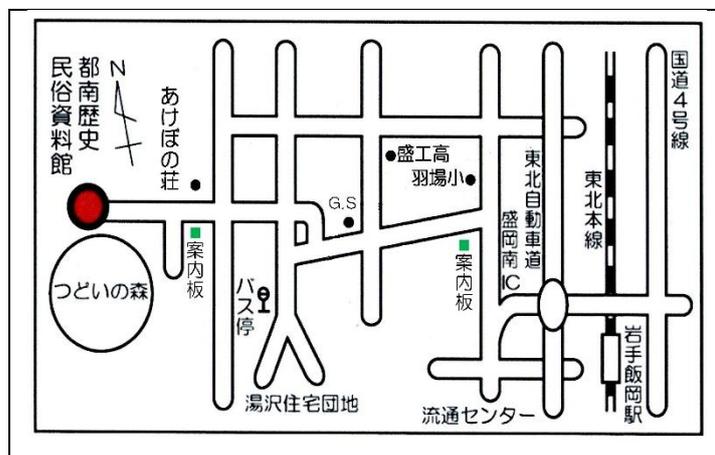
飯岡才川遺跡出土須恵器
(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター所蔵

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 宮崎求馬と宮崎文庫
- 企画展「飯岡・湯沢地区の遺跡を知る」
- 次回企画展のご案内
- 資料は語る④
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介④
- となんの昔ばなし④

MAP☆ACCESS



○利用案内

- 開館時間
午前9時から
午後4時まで
- 入館料
無 料
- 休館日
月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)、年末年始

宮崎^{もとめ}求馬と宮崎文庫

盛岡市都南歴史民俗資料館 学芸調査員 河野 聡美

盛岡市の先人といえば、米内光政や原敬、新渡戸稲造と多くの先人を思い浮かべます。しかし、その中で都南地域の先人は誰かと聞かれて、すぐに思い浮かぶという人は少ないかもしれません。

市内西見前の北野神社には、大正4年(1915)に建てられた「宮崎求馬君彰徳碑」があります。碑文は新渡戸仙岳(盛岡市先人記念館顕彰)によるもので、内容は宮崎求馬の経歴と人物について記されています。宮崎求馬は嘉永5年(1852)祐道の長男として生まれ、藩校作人館で学んだのち太田代恒徳らに就きます。明治6年(1873)、自宅を見前小学校の校舎にあて自らも教鞭をとり、以降大正3年(1914)に同校を退職するまで多くの生徒を教えました。また、読書家でもあった求馬は退職後、多くの蔵書を活かして私立図書館「宮崎文庫」を設立します。「私立図書館宮崎文庫仮図書目録」(岩手県立図書館所蔵)には、宮崎文庫が設立された大正4年(1915)から大正14年(1925)までの仮蔵書目録が記されており、貴重な蔵書を地域に役立てていたことが分かります。また、明治32年(1899)の「見前高等小学校建築寄附金帳」(当館蔵)には寄付金者氏名に求馬の名があり、長く教員を勤めた同校へも多方面で尽力しています。

数千点にも及ぶ蔵書「宮崎文庫」は、岩手大学に所蔵されています。現在、宮崎求馬および宮崎文庫について当館と岩手大学が調査を行っており、地域に貢献した先人として多くの人に宮崎求馬を知ってもらえるよう引き続き調査を行っていきます。



「宮崎求馬君彰徳碑」(北野神社)

※宮崎求馬に関する資料等をお持ちの方は、当館までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

社会科見学のご案内



当館では、例年市内の小学校・中学校の社会科見学を受け付けております。学習教材として資料の貸し出しも行っておりますので、是非ご利用ください。

<ご連絡先>

盛岡市都南歴史民俗資料館

企画展

飯岡・湯沢地区の遺跡を知る

当館では、平成 27 年 5 月 2 日(土)から 6 月 21 日(日)の期間、企画展「飯岡・湯沢地区の遺跡を知る」を開催いたしました。

本展では、昭和 50 年代に発掘調査が行われた縄文時代中期を主体とする湯沢遺跡をはじめ、盛岡南新都市開発整備事業(盛南開発)など近年の開発や道路整備により調査が行われた飯岡才川遺跡、飯岡林崎Ⅱ遺跡など縄文から古代の 8 遺跡を紹介しました。



また、開催期間中の 5 月 23 日(土)には「飯岡・湯沢地区の遺跡—身近にこんな遺跡が—」と題して当館館長による講演が行われました。講演では、企画展で紹介している遺跡について詳しい説明があり、講演後は参加者から多くの質問が寄せられました。

本展を機に、当館では今後も都南地域にどのような遺跡があったのか出土資料などを通して紹介していきたいと思えます。

合同企画展

目で見て楽しむ名所 —鎌田コレクションを中心に—

平成 27 年 7 月 18 日(土)～

8 月 30 日(日)

当館では、平成 27 年 7 月 18 日(土)～8 月 30 日(日)の期間、合同企画展「目で見て楽しむ名所—鎌田コレクションを中心に—」を開催いたします。大正～昭和初期に起こった国内の観光ブームにより、観光地の絵葉書や名所案内が多数発行されました。展示では、市内在住の収集家鎌田氏所蔵および当館所蔵資料から盛岡や平泉など県内をはじめ東北各地の名所を紹介した資料を展示します。



【紡錘車 百目木遺跡出土】

紡錘車は、繊維によりをかけ糸に仕上げて巻き取る道具です。土製や鉄製、石製などがありますが、当館で所蔵しているのは百目木遺跡から出土した土製紡錘車です。中央の穴に棒状の軸を通し、軸の先端に繊維を結び円形の紡錘車を回転させてよりをかけ、つむいでいきます。紡錘車は、日本では縄文時代の終わり(晩期)に出現し、奈良時代には鉄製も普及します。

百目木遺跡から出土した土製紡錘車は8点です。うち6点は奈良時代の竪穴住居跡から、2点は遺構外からの出土です。土製紡錘車の形状はいずれも断面台形状の円柱で、遺構外出土のうち1点は角がかなり摩耗しています。大きさは直径4cmから5cm、厚さは2cmから3cmです。

参考：「百目木遺跡発掘調査報告書」(1979)、「日本史広辞典」(1997)

国指定重要文化財



緋地羅紗合羽 1領

盛岡藩初代藩主南部信直所有と伝わっており、猩々緋とも呼ばれる赤色の生地には象牙製のボタンが両袖と裾に付けられています。瓢箪型の胸紐のほか、生地には金モールの縁取りがみられ、衿のボタンによって羽織にも合羽にもなります。

実用的でありながら、細部に西洋の影響を受けた桃山時代を象徴する意匠が表れています。この資料は、現在もりおか歴史文化館に所蔵されています。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』

(2008)、盛岡市教育委員会歴史文化課「南部家の至宝」(2011)

『家臣の悪だくみ・後編』

となんの昔ばなし四十三

藤島石見は、早速三人を呼び出し酒肴でもてなしながら、城主を討つ計画を打ち明けます。はじめは断った三人でしたが、巧い話に乗り渋々承諾します。

心が落ち着かない三人は、東野文七、杉山一学に藤島石見の件を話しました。話を聞き驚いた二人は、登城し殿に知らせました。怒った殿は、家来に出兵を命じます。

藤島石見が家来を集め相談していると、杉山一学が二百余名を引きつれ石見の館を取り囲みました。杉山一学は、

「大将の杉山一学である。お前らの悪だくみに、殿はご立腹である。悪を認め、武士として降伏・切腹したまえ。さもなくば、我が手にかかれ」

と叫びました。戦の準備をしていない石見たちは大慌てです。杉山勢は大門を打ち砕き乱入し、裏門より攻め入りました。

石見の家来は降伏し、十日市九兵衛に切腹を説得された石見は、もはやこれまでと切腹します。その首を切り落とした九兵衛は、大将の杉山一学の前に馳せ

「藤島石見の首を、私が討ち取りました」

と首を差し出しました。しかし、杉山一学は九兵衛も同罪とし縄をかけました。石見の首と九兵衛が殿の前に出されると、

「日頃の恩も忘れ、何の恨みがあつてのことか。それぞれ逆臣ゆえ、辻場で首を落とし、獄門に上げ晒し万民に見せよ」

といい、二人の罪が高札に掲げられました。これ以来、家臣は忠節を誓い飯岡氏が栄えました。